

会 議 録

会議名	令和4年度 第1回印西市子ども・子育て会議
開催日時	令和4年7月20日(水) 午後2時00分から午後3時15分まで
開催場所	印西市文化ホール 多目的室
出席委員	西村 信 会長、山崎 晃生 委員、伊藤 秀賢 委員、武藤 茂 委員、古賀 一人 委員、 岩井 基 委員、松山 毅 委員、金子 貴子 委員、塚田 昌幸 委員、篠原 裕子 委員 計10名
欠席委員	小林 すみ子 委員、荒野 多恵 委員 計 2名
出席職員等	[健康子ども部] 部長 岡本 一弘 [事務局]【子育て支援課】青木 恵巳子、金森 紀美子、黒田 学、木村 裕子 [関係課]【保育課】澤田 慎一、服部 里江、植木 浩、稲富 俊輔、成田 勝也 計 10名
傍聴者	0名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 (1) 市内保育園及び小規模保育事業所の利用定員について 【資料1】 (2) 保育所等利用申込書の一部改正について 【資料2】 (3) その他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・令和4年度 第1回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・印西市子ども・子育て会議 委員名簿 ・令和4年度第1回子ども・子育て会議席次 ・【資料1】 市内保育園及び小規模保育事業所の利用定員について ・【資料2】 保育所等利用申込書の一部改正について

会議概要・審議経過

会議の公開と傍聴規定について
会議の録音及び会議録の署名について
委員の委嘱について
会議の開催について 出席者10名で定足数に達していることを報告
会議資料の確認
健康子ども部長あいさつ
事務局職員の紹介

1 開 会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 議 題

【会 長】 それでは、議題に入らせていただきます。
議題（1）市内保育園及び小規模保育事業所の利用定員についてを議題とします。それでは事務局より説明をお願いします。

（1） 市内保育園及び小規模保育事業所の利用定員について 資料1

○事務局より説明

○質疑

【委 員】 去年からの待機児童が76名とあったが、増加保育定員を計算すると全部で467名の増加ということで、単純に待機児童がいなくなるように思えるが、すべての園が令和5年4月から定員の増加ということなので、現在、待機児童数が解消されているということではないと思うが、来年度の4月からの待機児童数の解消を目指しているのか、それとも現時点で既に解消されているのか。

【事 務 局】 現在の待機児童の人数ですが、国からの正式な公表は10月になるので、今待機児童数を精査しているところだと思うので、正確な数値は控えさせていただくが、昨年4月1日と比較して大幅には減少している。ただし、解消にはなっていない。今年も保育園の整備をして受け皿としての整備は進んでいるので、園を選んでいただかなければ0人に近づくが、保護者の希望する園と実際に保育園が整備される場所に乖離があり、今年の4月1日の待機児童が解消するところまでは至っていない。ただし、来年の4月1日に向けて保育園の整備は進んでおり、解消に近づくのではないかと考えております。

【委 員】 保育園の新設や待機児童が減るように試みていただき感謝するところだが、西の原や東の原、小林にお住まいの方が、遠くの園を希望されるというのは難しいと思う。私の知

り合いでも子どもが生まれて、家の近くの保育園を希望しているが、なかなか保育園に入ることができない。新設することで新しく転入される方達がスムーズに受け入れができるようになってくるかと思うが、既存の保育園の増改築や新設ではなく、保育園児、幼稚園児の受け入れを増やす試みはあるのか。

【事務局】 園児を増やす試みというか、施設の中で定員を増やすということか。

【委員】 既存の保育園でそこにどうしても入りたいと近場の保育園を候補に挙げると思うが、第1希望、第2希望を変えない人はずっと保育園に入れないという状況が何か月も出てくる。それにより誰かが仕事に復帰できず、祖父母に見てもらおうといった、環境自体を変える試みは難しいでしょうけど、そうしたら保護者に、ちょっと遠くの保育園に行ってくださいというのが現実的な解決策なのかもわからないが、そういった問題についてただ保育園を新設するとかだけではなくて、何か取り組みがあるのか。

【事務局】 まず、保育園の入園申請の件ですが、これは、保育の必要性に応じた点数付けをしており、その中で点数が高くなる傾向にあるのが、両親ともフルタイムで就労、かつ育休復帰などの加点が付いた方で、保育園の入園申請は点数の高い方が優先で、入園を希望する保育園の空きがあれば希望順に入園決定をしています。点数が低い方はそういった方より近くの希望する保育園への入園が叶わないということは認識している。昨年は印西牧の原駅周辺に転入して住宅を購入された方も非常に多くいて、そういった中で、保育園の受け入れも、面積要件と保育士要件で許す限りの弾力的運用で受け入れをお願いした。

どうしても特定の保育園を希望され、待機や辞退された方には点数を加点し、それでも入れない方に関しては、今のところそれ以上の手立てがない。できたら空いている保育園を希望していただければということでご案内させていただいている。

それと施設を整備する側の立場からすると、まず1つは今ある施設を利用して皆様のご希望に添えないかという点では、弾力的運用を多くの保育園でやってもらい、牧の原の周辺の保育園では定員以上でできる限りの人数を受け入れている。認可をしているので、子ども1人に対する面積、保育士の数、こういったものはクリアしておりそれを度外視して受け入れることはできない。ですので、新しい施設、それから既存の施設の改修をしているが、その事に関して、まったく住宅がない場所に新しい保育園を設置しても、新しく転入し、小さなお子さんと一緒に住んでいる方のためになるかということ、作った方がいいが入園してこないという状況になってしまうので、先程説明した新設の保育園については、公募で選定をする際に立地の点数をかなり高くして千葉ニュータウンの転入が進んでいる地域に近い場所を見つけてプレゼンテーションしてくれたところを選ぶようにして、NOVAバイリンガル印西東の原保育園は東の原で、もう1つの筑波匠仁会の保育園は草深でも西側になるが、比較的ニュータウンに近い所に立地している。他の改修施設についても、かふう保育園いんざいは牧の原六丁目、レインボーウィングスイターナショナルはニュータウン中央圏や牧の原圏からも近いところにある。ちいさな杜の保育園はニュータウン中央圏で、できるだけ住宅地や転入が多い場所に近いところにあるが、どれだけ入園して頂けるかというのはやってみないと分からないがそのように進めている。

【委員】 同じ千葉県内の流山市は保育園を新設したが遠くて行けないという問題を解消できた都市で、保育園のバスが来て、保護者は子どもたちを駅にある施設に降ろし、そこからバ

スが色々な保育園に行くという素晴らしい施設が多分流山にあったと思う。そのようなことをすぐやるというのは多分無理だと思うが、今後も開発が進み、千葉県で一番住みやすい都市で、しかもその子育てに一番強い印西で売っていくのであればそういうことは可能かと思った。同じ千葉なので、多分ご存知だと思うが、そのような斬新なアイデアは、印西市でもあるのかと思い質問させていただく。

【事務局】 お話にあったのは保育ステーションと言われるものだと思うが、現段階ではすぐということはないが、まずは待機児童の解消を最優先の課題として考えており、その解消が済んだ段階で、先進の事例を参考にして印西市に合うものを検証し、実施に向けて検討していきたい。

【委員】 待機児童をなくすためにも、その斬新なアイデアは必要かと思う。なので待機児童をまずゼロにする、それと別の問題ではなくまずは待機児童ゼロにしてからということではなく、どんどん子どもが増えていく中で、ちょっと遠くて土地があるところには保育園、幼稚園を作れるが、そこに行くための問題が出た時のためにも考えておけば、同時に様々な事が解消していくと思ったので、アイデアとして共有させていただく。

【事務局】 委員が言うとおおり、この事例については、並行して研究して行きたいと思う。

【委員】 今、待機児童が多いのは、やはり0、1、2歳児なのか。0、1、2歳児もそうだが、3、4、5歳児もかなり増えてくるので、転入してくる人たちを想定してなのか。

【事務局】 入園の申請の状況ですが、今年の4月の入園状況は、0歳児の需要はあまりない。印西市は1歳児も多いが、2歳児と3歳児が一番多くなっている。転入してくる方で、転入前の市町村で既に認可保育所等に行っていて、転入と同時に保育園に入れたいという方が多くいる。そういった入園の状況はこちらでも把握したので、この新設2園については募集の段階で、印西市の待機児童で一番足りてない1、2、3歳児、この辺りの定員を多くしてきたところは点数を高くすることとした。その他に改修をする施設についても、ちいさな杜の保育園はもともと0、1、2歳児しかないもので、そこに3、4、5歳児を加える改修なのでちょっと意味合いが違うが、かふう保育園いんざい、それからレインボーウイングスインターナショナルについては、できるだけ0歳児は抑えて、1、2、3歳児の部分が多めにお願いし、入園の状況をできるだけ加味した上で考えている。

【委員】 やはり印西も新しい家がたくさん増えているが、新婚よりある程度の年齢でお子さんが、1人2人いるような方がマイホームを購入しきて、もう1人産むか産まないかっていうことだと、今いるお子さんがすでに0、1、2歳児じゃなくて1、2、3、4歳児位の転入が増えて、その後ももうひとり産んだ場合は0、1歳児位だったり、育休やコロナで在宅が増えたり、育休が延長になったりする。佐倉市では0、1、2歳児の需要を見越して、保育園の定員を増したが、加算が付く0、1、2歳児が入ってこないで、保育園の経営が厳しいという声を聞いた。そういう意味で0、1、2、3、4、5歳児のニーズとのバランスは今の話でだいたい理解できた。もう一つ伺いたいののが、これだけ園が増えてくると、各保育園の保育士や幼稚園教諭の確保の状況はどうなっているか。どの市町でも保育士の確保ができず、定員を満たせないところが出てきている。親御さんの視点

で預け易さもあるが、子どもたちが10時間近く過ごすことを考えたときに、保育の質の確保、保育士、幼稚園教諭確保の支援を印西市としてアピールしていかなければいけないと思うが、既に何か行われているのか。

【事務局】

保育士の確保については大変厳しい状況であると認識しているが、印西市内では保育士を雇うことについて色々と各保育園が努力して、なんとか保育士の確保ができていと伺っている。さらに園も増えて厳しくなってくると思うが、民間保育園と話し合いながら、市として何か支援できることがあるか検討していかなければならない。印旛郡市内では処遇改善と言いますか、よく印西手当と言われるが、印西市は印旛郡市内では最高額の4万円の補助をしているので、民間保育園も保育士の確保に努めていただきたい。

【委員】

4万円は凄い。船橋や市川、千葉あたりは家賃補助も含めてということはよく聞くが、印西市の4万円は知らなかった。そういうことも是非アピールしてもらいたい。同じ市内でも保育士のネットワークを通じてより給料が高い保育園に保育士が移る。給与が安定してくると保育も余裕が出ると思うので、ぜひその方向でお願いします。市では何とも言えないと思うが、確実に保育士さんに給与が上がるように進めてもらいたい。

【委員】

保育園と幼稚園の先生たちの扱いに違いはあるか。保育士の確保と言っていたが、保育園と幼稚園は基本的に一緒と考えてよいのか。先程4万円の話をしていたが、保育士が給与の高い所に流れていくと言っていたが、公立の幼稚園はもとの幼稚園ともう1か所あるが、そこと比べて良い保育士が、給与が高いところに流れていくことがあれば、公立のもとの幼稚園ともう1つの幼稚園、そこの各保育士さんの確保が大変になってくるのか。保育園と幼稚園、保育士の確保という面で、民間と公立の違いで、保育士の給料などもいろいろ違うという理解で合っているか

【事務局】

幼稚園と保育園ですが、幼稚園は文科省の管轄で、保育園は厚生労働省の管轄になり、それぞれ目的が異なっている。幼稚園は文科省で教育施設だが、保育園は保育施設で児童福祉を目的としており、働いている親御さんのお子さんを預かるための施設と、幼稚園は一定の年齢に達したお子さんを教育するための施設という違いがある。幼稚園教諭と保育士は別の資格になる。先程の保育士の手当については幼稚園教諭は該当になっていない。児童系の学科や卒業されて資格を取得した方は、両方を持ち合わせている方が殆どだと思うが、どちらか一方という方もいたり、幼稚園教諭については、つい先日まで免許の更新という制度があったので免許を更新せず、大学を卒業して資格は取ったが、ずっと活かさずにそのまま失効してしまったりということもある。確保という面では、市では幼稚園教諭と保育士の資格を持った方を募集して、市の職員として採用し、市内の公立保育園と公立幼稚園に配置し、人事異動で人が入れ替わったりするが、適正にどちらの施設も運営できる人数を正職と足りない場合は任期付職員や会計年度任用職員で、時間外などに対応して保育や教育に支障がない運用している。給与は市の条例で定めており、民間と開きがないような給与形態を定めている。

【委員】

定員に関しては特に意見はないが、今後も建物を増やして行くのか。既存の保育園、幼稚園をしっかりと守っていかなければいけないと考えると、先ほど委員が言ったように、どこかで方向転換をしないと、既存の園の運営が心配になる。中長期的に今後の印西市

のハード面のあり方はどのようなものなのか。あと私は障がいのある方を支援しており、門が広がるのは非常にありがたいが、配慮が必要なお子さんになるので、加配の先生がどうしても必要で、加配の先生がいないので入園ができないと聞いてますので、その検討をしていただきたい。最近、医療的ケアが必要なお子さんの保護者から、健常のお子さんと一緒に保育園に通いたいというお話も聞いているので、今後検討していただきたいと思う。

【事務局】

まずハード面ですが、確かに過剰整備というのは今後の印西市が直面する課題と思うが、先ほども申し上げたとおり、保育ステーションの実施について、検討には至ってないが、そういった事業の実施の検討や、最終的には公立保育園の人数の調整といったところで対応していきたいと思う。それでも更に整備が必要ということがあれば、国でも話題となっているのでそういった補助があるので注視して行く。障がい者への配慮、加配については全ての保育園で対応できている訳ではないが、加配に対する補助金は千葉県で各園1人しか認められてないため、手帳を持っている方に加配をつける場合、1人以上の職員を雇う場合は、印西市単独で補助をしている。ただし保育士を確保することについては、各保育園で苦慮されているようなので、各保育園と話を進めていきたい。最後に医療的ケアについて、印西市でも医療的ケアが必要なお子様で入園を希望されていることは把握している。法律も整備され、今印西市としても受け入れるためのガイドラインの作成や、受け入れ方法等について、各公立保育園が先に受け入れるための検討をしている最中なので、なるべく早い段階で受け入れるよう考えている。

【委員】

主任児童委員をしているが、今年の話ではないが、家を建てて引っ越してきた方で子どもが3人いるが、3人兄弟を同じ保育園に入れたいと探したが入ることができなかった。引っ越して来たのが5月の初めだったため、結局、印西市内に受け入れてくれるところがなく、保育園と幼稚園と違うのは判っているが、保育園代わりに私立の幼稚園の時間外で延長保育とか開園時間の前に預かってもらうシステムを使い他市の幼稚園に3人入れたというお母さんと話をする機会があり、市内じゃない保育園に行くということはあるのか。印西市に住むと印西市の保育園がいいのか。他の市内の保育園に入れるというのは大変なのか。結論的に言うと、引っ越してきた時期も、お母さんが言うには悪かったみたいで、もう少し早く引っ越して来れば、幼稚園、保育園の申し込みができたのかもしれないが、市外の幼稚園に入れ、制服も作ったので、次の年にまた保育園に入れ直すのも幼稚園に慣れてきて可哀そうだからと、たぶん30分ぐらい通園するのに車で送り迎えをしていたというお話を聞いて、印西市はそんなにひどいのかと思った。現在、まだ2人はその幼稚園に通っていると聞いたがそういう事はあるのか。

【事務局】

確かに4月入園が、入るタイミングとしては一番よい。その3人兄弟が3人共預かれないうことではないと思うが、やはり5月入園ということになると、保育園に空きがなく、例えば真ん中の子と下の子は入れるが、上の子は空いてないということもある。多分、申請の際にどうしても3人同時でというような申請をされたのかと思う。そういう事だと入れないということがある。それについては大変申し訳なく思っている。できる限りそういう要望には答えていきたいと思っているが、空きがなく対応できなかったものだと思う。他の市町村に入園することについては、例えば他の市町村の幼稚園で人数的な枠があり入れたということもある。仮に印西市の幼稚園でも、3人空いている

ところがあれば、住んでいる市の施設を使ってもらえるのが一番利便性も高いと思うので、市としても保育園を新たに整備して、各保育園に余裕があり過ぎてはいけないが、ある程度余裕がでてくると、兄弟が同時に入園することも可能にはなると考える。

【委員】 例えば上の子がA保育園にいて、下の子も上の子と同じA保育園に入れたいと思ったら入れるのか。それとも順番があるのか。

【事務局】 はっきり入れるとは言えないが、そういった兄弟がいる場合、同じ保育園に入るために加点をして点数を上乗せし、なるべく同じ保育園に入れるようにしている。また、一旦ほかの保育園に入って頂き、その保育園に入れるようになったら転園という申請をしている方もいるが、なるべく兄弟が一緒にいれるよう配慮は行っている。

【会長】 只今の議題について、事務局案の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いします。

【委員】 全員挙手

【会長】 挙手全員ですので、本議題については事務局の説明のとおり承認することといたします。
議題（2）保育所等利用申込書の一部改正について、事務局の説明をお願いいたします。

（2）保育所等利用申込書の一部改正について 資料2

○事務局より説明

○質疑 なし

【会長】 只今の議題については事務局の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いいたします。

【委員】 全員挙手

【会長】 挙手全員ですので本議題については事務局の説明のとおり承認することといたします。続きまして、議題（3）その他について事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】 特になし。

【会長】 それでは、以上すべての協議が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

4 その他

【委員】 この会議は子ども・子育てのプランに基づいて行っている会議か。

【事務局】 そのとおりです。

【委員】 今日は保育園の話でしたが、子ども・子育ては保育園だけではない。それこそ先程委員が発言したような障害のあるお子さんのことや、子育ての悩みを抱えている方、妊産婦の方、周産期の問題などいろいろあると思うので、今度会議を開催される時には、保育園や幼稚園の入所の問題だけでなく、子育ての現状、世代包括や新事業であった相談など、子育て全般にまつわるテーマも出して、ここで議論できるような会議にしてもらえると、我々としてもいろいろな観点から子育て支援に関して意見が言えると思うので、次回以降そのような議題についても設定してもらいたい。

【委員】 議題なども委員が設定するような、そういうシステムはないのか。いつも議題が提示され受け身になっている。話を聞いていて委員から議題の提案をするやり方もあるのではないかと思った。

【事務局】 いんざい子育てプランの中にこの会議を設置する条例が載っているが、その所掌事務としては、会議は法律に掲げる事務処理をするようになっており、例えば先ほどの説明であった、保育園の利用定員が変更になる場合には、委員の皆さんに協議して頂くなど何項目かある。本来はそれが所掌事務になります。もしも委員の皆様からこういう問題を勉強したいということがあれば、議題ということではなく、勉強会ということだと思います。

○事務局より連絡事項等

・次回会議予定について

5 閉会

令和4年度第1回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 4年 8月31日

子ども・子育て会議委員

岩井基

子ども・子育て会議委員

松山毅